日本多施設共同コーホート（J-MICC）研究
平成 25 年度　第 1 回　外部評価委員会

日　時：平成 26 年 2 月 17 日（月）　15 時 00 分～17 時 00 分
場　所：名古屋大学医学部　基礎研究棟 1 階　会議室 1
　　名古屋市昭和区鶴舞町 65

出席者（敬称略）：
富永祐民（委員長）、飯沼雅朗、齋藤英彦、三木健二、森際康友（以上、委員）
田中英夫（主任研究者）、浜島信之、若井建志、内藤真理子、菱田朝陽、
森田えみ、川合紗世、岡田理恵子、田村高志、中川弘子（以上、中央事務局）

１．平成 24 年度第 1 回外部評価委員会議事録の確認
平成 24 年度第 1 回外部評価委員会議事録の内容を確認した。

２．研究進捗状況
中央事務局（若井）より、2013 年 12 月末現在、J-MICC 研究本体で研究協力者が 74,000 人を超え､J-MICC 連合をあわせると全体で 10 万人に達したことが報告された。また、追跡調査と第二次調査について報告があり、第二次調査の同意者数は約 21,000 名となり、J-MICC 連合を合わせて約 35,000 名になったことが述べられた。委員より第二次調査の参加率および目標参加率について質問があり、現段階では約 6 割強の参加率であり、最終的には採血も可能であった参加率 35%以上が目標であると報告された。また委員よりグラフは横が時間、縦が参加数で、連合は分けたほうが分かりやすいとの指摘があった。

３．倫理審査の実施状況
中央事務局（若井）より、愛知県がんセンターおよび名古屋大学の倫理委員会において、オーダーメイド医療の実現プログラム、東北メディカル・メガバンク計画および JPHC 研究との共同研究実施が承認されたことなど、倫理審査の実施状況が報告された。

４．各種委員会の開催状況、サイトビジットの実施状況
主任研究者より、平成 25 年度は通常開催の委員会に加え、追跡調査ワーキンググループ会議や、食事記録調査講習会を開催し、また第二次調査を開始した千葉地区、京都フィールドにモニタリング委員によるサイトビジットを行ったことが報告された。委員より運営委員会等で重要と思われた議題については、外部評価委員にも報告してほしいとの要望があった。

５．バイオバンク・ジャパンとの共同研究について
研究責任者（田中）より、バイオバンク・ジャパン、東北メディカル・メガバンク機構、および多目的コホート研究との、ゲノムワイド関連研究のための共同研究の案について説明された。J-MICC 研究からは約 14,000 名の DNA を理化学研究所に提供し、結果は匿名化番号とともに返却されるので、J-MICC の独自研究としても使用可能であることが説明された。委員より対象者に染色体異常などが見つかった際に参加者に結果を伝えるのかとの質問があり、研究責任者、中央事務局（若井）より、原則

として結果は知らせないが、結果を返すことで有効な治療が可能であるなど有益な場合には、その都度倫理委員会と協議して対応するとの回答がなされた。

６．個別共同研究の促進について

中央事務局（若井）より、J-MICC 研究に参加する各サイトと外部の研究者との個別共同研究の促進に関する取り組みについて説明がなされた。平成 25 年 1 月より開始し、これまでに 9 件の問い合わせがあり、うち 4 件は現在共同研究を実施中であることが説明された。委員よりホームページ以外で外部の研究者がこのシステムを知る方法について質問があり、がん支援ネットワークの研究者に、一斉にメールで連絡したとの回答がなされた。

７．追跡調査について

中央事務局（若井）より、平成 25 年 8 月に追跡調査ワーキンググループを開催し、各地区での死亡、転出、がん罹患の調査方法について報告、検討されたことが報告された。委員よりがん登録の法制化により、調査対象地域から転出しても追跡が可能になったのではないかとの質問があり、現状では死亡小票を保健所で閲覧する必要があるので、転出は追跡打ち切りになっているとの回答がなされた。また委員より愛知県がんセンターのがん死亡、罹患が圧倒的に多いため、それを除いた集計もある方が望ましいとの意見が出された。

８．横断研究の進捗状況について

中央事務局（浜島）より、横断研究についての進捗状況が報告された。平成 20 年度より 4,519 人に対し第 1 回 108、第 2 回 357 の遺伝子多型の解析が終わっており、計 15 編の原著論文が受理されていることが報告された。委員より Phenotype のグループ分け（疾患、危険因子など）を行い、横の罫線を入れて表を見やすくすることが要望された。

９．学会･論文発表状況

中央事務局（川合）より、J-MICC 研究開始時からの論文・学会発表数について報告され、原著論文（欧文）計 46 編、原著論文（和文）計 2 編、学会発表計 199 題であることが述べられた。委員より論文化のサポート体制について具体的にどのようなことがなされているかとの質問に対し、主任研究者より、共著者間でメールにより投稿前のチェックを行うこと、必要に応じ査読の結果をメールで共有、対応を考えることを行っていると回答された。委員より論文の作成を研究者の自主性にまかせていて良いのかとの質問に対し、一定期間論文化ができなければ書く権利を放棄して他の研究者に回すなど、戦略的に論文化をすすめる予定であると回答がなされた。また委員より、がん罹患をエンドポイントとした分析が可能になるにはなお数年を要するので、当面は横断研究がメインとなるが、横断研究であっても工夫して成果を出してほしいとの意見が出された。

10．J-MICC 研究ホームページについて

中央事務局（内藤）より、J-MICC 研究公式ホームページが更新され、主任研究者の年頭の挨拶と、その英語版が掲載されたことが報告された。委員より、発表された論文の要旨をまとめたコーナーが一般の人にも分かりやすいこと、また主任研究者の挨拶も分かりやすいため、毎年更新が望ましいとの意見が出された。さらにタイトル

や段落を短くすること、ネイティブにも分かりやすい英語で書くこと、「J-MICC」以外でも「がん、生活習慣病」などのキーワードでも検索にかかるような改善が望ましいとの意見が出された。